

トルコギキョウ吸水種子の低温処理による10～11月出し栽培と適応品種					
[要約] トルコギキョウの吸水種子を6月初旬から10 で5週間低温処理を行い、その後、寒冷しゃを被覆した施設内で4週間育苗して8月上旬に定植すると、10月から11月にかけて採花できる。この栽培の適応性は、品種により異なる。					
担当部署	園芸研究所・野菜花き部・花き花木研究室			連絡先	092-922-4364
対象作目	花き・花木	専門項目	栽培	成果分類	新技術

[背景・ねらい]

トルコギキョウの秋出し栽培は、播種直後から涼温で育苗するか、または高温期に播種してロゼット化した苗を低温処理し、7月下旬から8月に定植する技術が普及しているが、種子を十分に吸水させて10 で5週間低温処理すると、高温期でも抽台し、開花株率が向上することを明らかにした（平成10年度成果）。本技術は育苗コストの削減に有効であるが、実用化のためには育苗方法や適応できる品種について明らかにする必要がある。

そこで、低温処理終了後の育苗方法や、品種特性について検討し、10～11月出し栽培技術を確立する。

[成果の内容・特徴]

1. 低温処理終了後、定植までの育苗期間は、寒冷しゃを被覆して4週間とすると、定植後の活着株率や抽台株率が高くなる（図1）。
2. 10～11月出し栽培は、6月初旬にセル成型トレイ（200穴）に播種し、10 で5週間低温処理を行い、その後、50%遮光した施設内で4週間育苗し、8月上旬に定植すると、10月から11月にかけて採花できる（図2）。
3. 吸水種子の低温処理による10～11月出し栽培に適応する品種は、「あすかの萌黄」や「アロハバイカラーピンク」、「エクセルローズピンク」など、48品種である（表1）。

[成果の活用面・留意点]

1. 播種前に用土を十分に湿らせ、種子が吸水できるようにしておく。
2. 定植後は、苗が活着するまで十分に灌水し、土壌を乾燥させないようにする。

[ 具体的データ ]

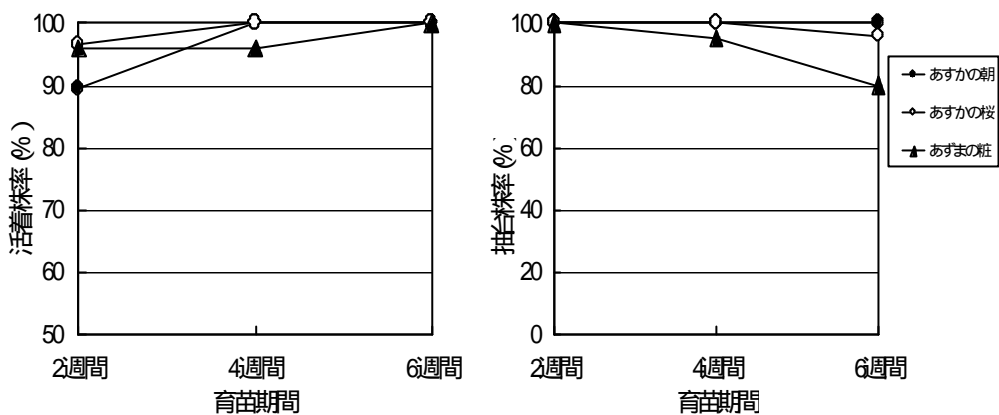


図1 低温処理終了後の育苗期間と定植後の活着株率および抽台率(平成10年)

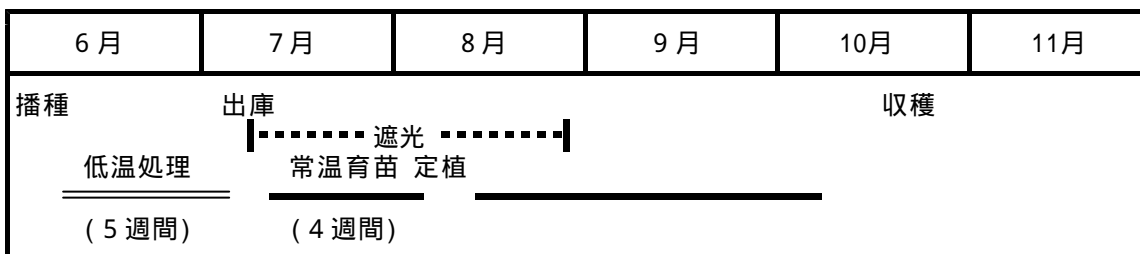


図2 吸水種子の低温処理による秋出し栽培の作型(平成11年)

表1 吸水種子の低温処理による秋出し栽培に利用できる品種(平成10~12年)

あすかの朝、あすかの空、あすかの萌黄、あずまの薫、あずまの汀、あずまの藤2号  
 あずまのほほえみ、彩の桜、彩の調、彩の紫、彩の雪、アロハバイカラーピンク  
 エースホワイト、エクセルクールピンク、エクセルローズピンク、エクローサグリーン  
 エクローサブルーピコティー、エクローサブルーフラッシュ、エクローサピンクピコティー  
 エクローサピンクフラッシュ、エクローサライラックピコティー、キャンディーグレープ  
 キャンディースモールホワイト、キャンディーピンク、キャンディーマリン  
 キュートグリーン、キュートピンク、キュートホワイト、キングエローピンクフラッシュ  
 クリアマリン、さとの藤、さとの粧、つくしの羽衣、ネールハート、ネイルピーチネオ、  
 ネイルマリン、はまの粧、ピンクフラッシュ、フローネピンクフラッシュ、プリンスブルー、  
 プリンズピンク、マイテホワイト、マリオンローズピンク、リネーションピンク、  
 リネーションブルー、ロココピーチ、ロココマリン、ワイルドピンク

以上、48品種

- 注) 1. 定植日：平成10年8月3、4日、平成11年8月3日、平成12年8月3日。  
 2. 開花株率が90%以上で、切り花長が60cm以上の品種。  
 3. 約200品種を供試した結果。

[ その他 ]

研究課題名：トルコギキョウ吸水種子の低温処理による秋冬出し栽培  
 予算区分：経常  
 研究期間：平成12年度(平成11~13年)  
 研究担当者：谷川孝弘、黒柳直彦、國武利浩  
 発表論文等：平成11~12年度園芸研究所野菜花き部花き花木研究室試験成績書